

令和5年度小松市立国府中学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
集団づくり	<p>＜主体的・対話的な集団づくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級会を定例に行うことで学校や学年・学級の課題について活発に話し合う場を設定する。</li> <li>・学年委員会等を活用し、学年目標達成に向けた学級力の向上及びリーダー育成を図る。</li> <li>・国府のつどいや執行部会、生徒議会を中心に、執行部や各専門委員会の取り組みの周知や結果報告を行うことで、生徒の連帯感や達成感を高める。</li> <li>・週に一度KOKUFUトークを実施し、相手意識を持って考えを伝え合うことで共感的な人間関係を高める。</li> </ul> <p>【客観的評価（アンケートより）】 ①学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。 中間（91%）総括（97%） ②話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達を考えを受け止めて自分の考えを伝える。 中間（95%）総括（97%） 上記①②について、90%以上の肯定的な回答を目指す。</p>	<p>各学年において月1の学級会や週1のKOKUFUトークを実施し、学級目標や遠足・修学旅行のルール、身近な話題等について学級で話し合い、考えを深めることができた。生徒アンケート項目（左記①②）では共に90%以上の回答があり、全校集会で共有した「相手の考えを最後まで聞き、肯定的に受け止める」ことができた生徒が多かったようである。</p> <p>また多くの学校行事があったが、生徒会や学年委員会が中心となって企画・運営ができ、充実感や達成感を得ることができた。そしてこれまで軌道に乗せられなかった執行部会や生徒議会においては定期的な実施することで生徒は取り組み内容を理解し、互いに連携して活動しやすかった。</p> <p>2学期ではこれらを生かし、生徒会や学年委員会を活用して縦割り学級会を実施し、全校で学校の課題を考える場を設定する予定である。</p>	<p>学級会を通して、各学級の課題やルールについて確認し、より良い姿を求める場を設定することができた。2学期には学年を越えて話し合う国府のつどいの中で、魅力的な学校を作るための提言を考え、共有した。本校の生徒の良さを生かした取り組みが出来ていたように感じている。</p> <p>KOKUFUトークでは学期毎に方法を変え、生徒の意欲を維持しながら取り組んだ。生徒は相手意識を持ちながら取り組んでいたように思う。2学期生徒アンケート項目（左記①②）では1学期に続いていずれも97%と高い結果であった。1年を通して学校全体で取り組んできた成果だと言える。</p> <p>今後は学級毎にとらわれず、本校の良さを生かし、学年全体や全校で話し合う場を多く設定することで、連帯感や達成感を高めていきたい。</p>
	<p>＜いじめの未然防止、早期発見に向けて＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導部会や教育相談部会を中心に、日頃より生徒の変化を把握し、定期的な情報交換により迅速・適切な対応を全職員の共通認識のもとに取り組む。</li> <li>・各種アンケートや定期面談、生活設計ノートなどの行動観察を学校全体で実施し、いじめの未然防止・早期発見に努める。</li> <li>・エンジェル週間の取り組みやKOKUFUトークなどを通して、日頃から温かい雰囲気づくりを心がける。</li> </ul> <p>【客観的評価（アンケートより）】 ①自分には良いところがあると思う。 中間（79%）総括（85%） ②友達は自分の良いところを認めてくれる。 (91%) (96%) ③学校生活は楽しいと思う。 (89%) (91%) ④学校に安心して来ることができる。 (90%) (92%) ⑤自分には悩みや心配事があるとき、相談できる人がいる。 (89%) (94%) 上記①について、80%以上、②～⑤について、90%以上の肯定的な回答を目指す。</p>	<p>各部会において密に情報交換を行い、全職員が共通認識をもって取り組むことができた。いじめの未然防止に向けて普段の行動観察や声かけだけでなく、ふれあいアンケートやQ-Uアンケートを実施して全員と面談を行うなど、生徒に寄り添った対応ができています。また本校の取り組みとしてエンジェル週間やKOKUFUトークを行い、温かい雰囲気のある居場所づくりができた。生徒アンケート項目（左記②④）で目標数値を超え、効果的に取り組んでいるように感じている。教師のSOSに気づく力を大切にしながら今後も未然防止・早期発見に努めたい。</p> <p>その一方で生徒アンケート項目（左記①③⑤）では目標数値を下回り、やはり生徒の自己肯定感において課題があるように感じる。左記にある取り組みを継続しながら、生徒の良さが発揮できる場を学校全体で考え、設定したい。</p>	<p>1年を通して継続した取り組みができた。全職員が共通理解のもとで生徒と接することができるよう、各部会や学年会を通して情報交換を密に行ってきた。また生徒の頑張りを共有する場も設定し、積極的に声かけを行う工夫も取り入れた。エンジェル週間やKOKUFUトークを通して、生徒は居場所を感じながら参加できていたように思う。2学期生徒アンケート項目（左記）では、すべての項目において目標数値を達成した。特に本校の課題であった①「自分には良いところがあると思う」においても改善が見られ、生徒の変容が分かる結果となった。今後も全職員が高いアンテナを持って生徒を観察できるよう、共通理解を徹底し、配慮を必要とする生徒を見逃さない雰囲気大切にしていきたい。</p>
道徳教育	<p>＜考え、議論する道徳授業の実践、積み上げ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究や校内研修を通して、全職員で道徳授業の力量を上げ、「考え、議論する道徳」の推進を図る。</li> <li>・生徒が授業における自己の変容を実感できるような評価についての研究を進め、実践する。</li> </ul> <p>【客観的評価（アンケートより）】 ①学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。 中間（91%）総括（97%） ②道徳の授業や行事などを通して、人間関係づくりや正しい生き方などについて考えるようになった。 中間（90%）総括（93%）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月初めに、学校研究と連携し、学習用端末を用いた道徳の授業について提案する校内研修を実施した。また、学年によっては級外の先生も入ってのローテーション授業を実施した。</li> <li>・1学期生徒アンケートにおいて、「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。」(91%)、「道徳の授業や行事などを通して、人間関係づくりや正しい生き方などについて考えるようになった。」(90%)との結果があり、道徳の授業においても「考える」機会が確保され、授業において「考える」活動を通して「深まり」を感じることも多いことがわかる。学期末の振り返りの記述にも、授業で考える前と後の自らの変容や深まりを感じている内容のものが多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年で級外の先生による道徳授業や、2クラス同時の「学年道徳」を行うなど、工夫しながら授業を実施した。</li> <li>・5月の校内研修で提案した「ポジショニング機能」を用いた授業も見られ、生徒も意欲的に自らの考えを表現し、友達の変容に関心を持って授業に臨み、考えを深めていた。</li> <li>・2学期生徒アンケートにおいても、①は97%、②は93%と1学期に比べてどちらの項目も割合が上昇している。①については、「KOKUFUトーク」などの生徒指導による取り組みの成果が大きい。その活動を通して、学級の仲間であれば、誰が相手でも抵抗なく話し合うことができるようになり、道徳の授業においても自分の考えを素直に伝え合うことができていると考えられる。道徳の授業においては、「他者と違う意見」が宝であり、それを抵抗なく伝えられる雰囲気を大切に守っていききたい。</li> </ul>
	<p>＜将来の生き方に希望を持ち、自ら学習に向かう生徒の育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな場面で、社会が「働く人々」によって成り立っていることに気づき、自分もその一員となろうという意識を育てる。</li> <li>・進路適性検査や自己理解の時間などを活用して自分の特性を知るとともに、伸長のための努力しようとする。</li> <li>・成長の証を「キャリアパスポート」に記録する。</li> </ul> <p>【客観的評価（アンケートより）】 職員アンケート ①キャリア学習として、自己理解の時間、将来の夢や目標について考える学習を推進している。 中間（100%）総括（100%） 生徒アンケート ①学校生活を通して、将来のことについて学校生活で考える機会が増えた。 中間（83%）総括（96%） ②将来の進路について家庭で話している 中間（67%）総括（79%） ③将来の夢や希望を持っている 中間（73%）総括（79%）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行・自主プラン、遠足など校外学習の機会を利用し、さまざまな仕事や働く人の存在について生徒たちに投げかけた。また外部講師を招聘する場面でも講話の内容にとどまらず、現在の仕事のやりがいやキャリアの経歴、今後の生き方についても語ってもらった。教職員の間でもキャリア教育への意識が高いことは職員アンケートからも見てとれる（項目①100%）。また、生徒アンケートでも「将来のことについて学校生活で考える機会が増えた」と答える生徒がほとんどである（83%）。それに比べ「家庭で話している」の項目は若干低く（全学年67%、1年は50%）、身近な職業人である保護者も巻き込むような仕掛けが必要である。今後も「職業人に聞く会」、「ようこそ先輩」（教育実習生）、校外学習等の活動とおして、さまざまな人物から仕事や生き方について聞き取りする機会を備けたい。</li> <li>・各学年で自己理解の時間を開催した。また進路適性検査や進路希望調査も実施し、自己をみつめ、将来を意識させる機会をつくった。</li> <li>・活動後にはふりかえりを行い、教室掲示やたよりで交流、適宜、キャリアパスポートに格納している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年、総合的な学習や学活、その他のさまざまな機会をとらえて、キャリア教育を推進していることは教員アンケートからも明確である。その方向性については、生徒アンケートの結果からもうかがい知れ「将来の進路のことについて考える機会が増えた」という項目はどの学年も向上している。また「家族と話す機会」についても3年生を中心にアップしており、保護者への投げかけも奏功していると考えられる。</li> <li>・一方で「将来の夢や希望をもっている」との回答は、1、3年では1学期よりも増えているが、2年生については低下している。ただし、全体として80%程度の生徒が肯定的である。なお2年生については、キャリア教育取り組みは現時点で継続中であり、まとめとふりかえりの完結でさらなる向上を期待したい。</li> <li>・上記を踏まえ、今後は「夢」の実現にむけたさらなる意欲向上や具体化のため探究活動の導入が必要となる。また、コロナ禍で職場体験や事業所訪問が実施できず、学年独自の取組が増えている。内容の精査とカリキュラムの再編成の必要がある。</li> </ul>
保健健康教育	<p>＜心身の健康に関心を持ち、自己及び他者を大切にしようとする生徒の育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会各委員会による保健指導、食育指導、体育指導の実施</li> <li>・保健体育科教諭と養護教諭が中心となり、各授業や各行事を通して、教科横断的に生徒の心身のよりよい発育、発達を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月の1年生の保健の授業で「より良い生活習慣」について学んだ後、学校歯科医を招いて「歯の健康」について保健指導を行った。食べ物とむし歯の関係についても指導していただき、教科横断的に健康指導を推進している。</li> <li>・7月初めに、生徒会保健委員会により各学級で「熱中症予防」について保健指導を行った。また、学校だよりや保健だよりを通して、熱中症における正しい知識や本校の対応についても発信している。心身の健康について、学校全体で取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月の学校保健委員会では、ネットの使い方について振り返り、そのメリットやデメリットについて確認し合った。</li> <li>・11月には、助産師や医師を講師として招き、各学年の発達段階に合わせ、「性と生」について学びを深めた。</li> <li>・12月には、生徒会保健委員会主導でかぜ予防や感染症予防のクイズを行った。</li> <li>・保健の授業では、保健体育科教諭と養護教諭が連携し、より専門的、多角的な授業を展開し、生徒の心身のよりよい発育、発達を図った。</li> </ul>
	<p>＜主体的に企画運営に取り組む生徒会指導＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動への関心を高めるために、魅力ある企画を行う。</li> <li>・生徒全員が目的意識と責任感を持って取り組み、やりがいや満足感を感じられる活動内容となるように掲示や「国府のつどい」を行う。</li> </ul> <p>【客観的評価（アンケートより）】 ①「学級会、kokuhuトーク、国府の集いの定例化など、主体的・対話的な活動の充実を図っている。」 中間（100%）総括（100%） ②「生徒会活動や委員会活動に参加し、充実感を得ることができた。」 中間（86%）総括（94%） 上記について、90%以上の肯定的な回答を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級会、kokuhuトーク、国府の集い、運動会、激励会などの活動に目的意識と責任感を持たせ、生徒主体で取り組ませよう促すことができた。生徒アンケート項目「学級会、kokuhuトーク、国府の集いの定例化など、主体的・対話的な活動の充実を図っている。」では90%以上の回答であるが、「生徒会活動や委員会活動に参加し、充実感を得ることができた。」では86%だった。「やりがいや満足感を感じられる活動」として取り組めた生徒が多かったがまだまだである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒主体で取り組ませよう促すことができた。アンケート項目「生徒会活動や委員会活動に参加し、充実感を得ることができた。」では7月86%から12月94%と6%上がっており、「学級会、kokuhuトーク、国府の集いの定例化など、主体的・対話的な活動の充実を図っている。」とともに90%以上の回答があり、「やりがいや満足感を感じられる活動」として取り組めた生徒が多かったようである。ただ、国府の集いでの企画力が不足しているのが課題であるので、生徒会執行部として学校にいま何が必要か考えることを促す機会を増やしていきたい。</li> </ul>